

平成22年度 森プロ事業実績：美濃白川森プロ

(平成23年3月末現在)

	H20～21年度		H22年度				5力年 計画	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考		
集約化(ha)	70	75	50	141	282%		240	
作業道(m)	5,000	4,400	4,500	2,656	59%	森林管理路	21,500	
間伐等	面積(ha)	33	55	37	30	81%	利用+切捨	187
	材積(m3)	2,300	1,883	2,000	1,011	51%	支障木含む	10,700
備考	団地外実績(利用間伐20.06ha、搬出材積1,314m3、作業路開設3,480m) 平成22年度当初から施業集約化実施計画により、白川町12箇所計1,199haの集約化施業に積極的に取り組んでおり、団地内では間伐等の計画数量を達成することが困難となった。							

H22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金-経費) 6,268 円/m3

施業集約化の状況

- 平成21年度の集約化説明時に隣接する地主等への働きかけを行っており、円滑に話しが進んだ。
- 平成23年度の施業予定地の所有者と長期施業受託契約を締結した。(10年間)
- 森プロ事業地内で集約化実施計画を策定した。2箇所、141ha

施業プランの活用状況

- 個別の箇所では施業プランナーが現地説明を行った。
- 市場関係者と現地調査を行い助言をもらうなど、施業プランの精度を上げる努力をしている。



施業プランナーの養成状況

- 施業プランナー: 1名専任化実施
- 施業プランナー養成基礎研修1名検討
- プランナー育成ステップアップ研修1名検討



↑ 第4回
全国提案型施業
事例発表会

施業プランナー活動実績発表

- 第2回地域森林管理・経営に関する研修会
- 第4回全国提案型施業事例発表会

←第2回
地域森林管理・経営
に関する研修会

作業道の状況

- 平成23年3月末現在 作業路開設 約20.24m/人・日
- 平成22年度実施箇所について、路盤及び路肩の転圧に関する指摘を受け手直しを行った。
- オペレーターが苦手としている転圧作業を克服するため、地元建設業者から指導を受け実施した。

開設直後指摘を受けた状況



地元業者の指導後の開設状況



作業システムの状況

- 平成23年度3月末現在 素材生産性 約3.92m³/人・日
- ① 伐採・造材・枝払い(チェンソー) → 集材(グラップル) → 積込・運搬(フォワーダ) → 運搬(トラック)
- ② 伐採(チェンソー) → 造材・枝払い(ハーベスタ) → 集材(グラップル) → 積込・運搬(フォワーダ) → 運搬(トラック)
- ③ 伐採(チェンソー) → 集材(スイングヤーダ) → 造材・枝払い(プロセッサ) → 運搬(トラック)
- ④ 伐採(チェンソー) → 集材(集材機) → 造材・枝払い(プロセッサ) → 運搬(トラック)

その他

- 間伐による伐採木のカスケード利用により、林地残材の有効利用をコスト面から検討するため、総務省所管の『緑の分権改革事業』として、森林総合研究所及び岐阜県森林研究所等の協力を得て、林地残材搬出実証に取り組んだ。

開発中のバイオマス対応型フォワーダによる実証



林地残材の搬出実証



- H21年度は森プロ地内で高性能林業機械の見学会等を実施したが、市街地から離れているとの指摘から、H22年度は森林組合に近い集約化実施計画地内で各種林業機械の実証及び見学会等を開催した。

岐阜県初となるF801デモ見学会



施業集約化現地見学会



森プロの成果

- 林道・作業路等について高密路網整備の実証と課題を整理することができた。
- 森プロのノウハウで、町内全域での施業集約化実施計画を円滑に進めることができた。
- 森プロへの取組み以来懸案となっている作業路盤転圧等について、指導を受けることができた。
- 高性能林業機械の見学会の出席者が増え、集約化や低コスト作業システムについて認識が深まった。

今後の課題

- 町内での集約化計画地が増えたため、各地の進捗状況に応じて、高性能林業機械をリースで導入する。
- 県森林組合連合会や地域の木材流通・加工業者と連携を図り、多様な販売経路を確立する。
- プランナーを2名体制に増員するため、H23年度は県施業プランナー養成基礎研修へ1名参加する。
- 積極的に各種研修会に参加し、現場に応じた技術の会得に努める。
- 森プロ団地内で見学会を開催し、町内全体へ普及啓発を図り、集約化を進める。